

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

豊島高等学校の校訓である、「克己」の精神に基づき「自主・自律」の心を育み、「己を鍛え、己を磨き、ともに切磋琢磨する」「他を思いやり、己を大切にできる」人材を育成する。

- 1 将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、その夢を叶えるべく、充実した誇り高い高校生活を送ることができる学校をめざす。
- 2 普通科専門コース制を有する学校として、各コースの特色を活かすとともに、自己の興味・関心を自己実現へとつなげていく。
- 3 社会人として必要なコミュニケーション力・プレゼンテーション力や語学力を身につけ、これからの社会に通用する人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 基礎学力の定着、発展的学力の育成をめざし、学力の向上を図る。

- ア 授業規律の徹底を図り、授業の準備に重点を置き、主体的に授業に参加させる。
- イ 双方向性に富む授業（主体的・対話的で深い学び）を行い、生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させる。一斉講義形式の授業から脱却する。
- ウ 学力の定着を図るために宿題・課題を適切なタイミングで課し、学習の振り返りおよび反復を行う。また、学力生活実態調査等を活用しながら学力の推移を把握し、基礎学力の定着を図る。
- エ 家庭（学校外・授業外）学習の大切さについても粘り強く指導を行い、課題・宿題の一層の取組みを促す。
- オ 授業外の校内での学習活動の充実を図り、進路自習室、進学特別ルーム（会議室）、アドバンス学習室（視聴覚室）の積極的な活用を行う。
- カ 効率的に「朝学」に取組み、漢字・英単語の学習、社説の読解等、基礎学力の向上を図る。

(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。

- ア 様々な教科・科目で単元・題材等内容のまとまりや区切りの中で、学習を振り返る場面やグループワーク・班別討論を多く取り入れること、また、教員の発問による授業展開の組み立てを研究しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実践につなげていく。
- イ 観点別学習状況の評価を進め、計画・実践（指導）・評価・改善による、指導と評価の一体化をすすめる。
- ウ ICT機器を効果的に活用し、視覚に訴える授業の充実や体験的学習を取り入れた指導方法の工夫に努める。

(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育成し、社会で生き抜く力と自己表現力を身につける。

- ア 各教科の授業に加えて学年の取組みや学校行事等を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。
- イ 国際共通語としての中心的な役割を果たしている英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく育成する。
※学校教育自己診断「…『自分で考える力』が身についた」の肯定率を令和5年度に80%にする。（H30年度80%、令和元年度65%、令和2年度67%）
「…予習や復習が必要である。」の肯定率を令和5年度に75%にする。（H30年度55%、令和元年度55%、令和2年度60%）

(4) 生徒の進路実現の支援

- ア 校内における進学講習や補習および土曜講習の拡充、夏季勉強合宿の継続及びone_day勉強合宿の拡充をめざす。
- イ 進路希望に合わせた進路指導および情報提供と進学講習等を計画的に実施し、早い段階での進路意識の醸成に努める。
- ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進し、生徒が自分の目標と到達度を的確に理解する指導体制を作る。
※4年制大学進学率60%を維持する。
※学校教育自己診断における「…進路についての情報をよく知らせてくれる。」の肯定率を令和5年度80%にする。（H30年度75%、令和元年度65%、令和2年度69%）
同様に、「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定率を令和5年に85%にする。（H30年度82%、令和元年度79%、令和2年度79%）

2 自らの将来を見据え、将来の寄って立つぶれない軸を形成する取組みの推進。

(1) キャリアデザイン（以下CDと記載）の推進

- ア 自分の人生・生き方・進路について考えさせる「キャリアデザイン」を「ロングホームルーム」や「総合的な探究の時間」を活用して推進する。
- イ 入学から卒業までの段階を踏んだCDプログラムに基づき、進路先の更に先にある職業意識を育む。

(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成

- ア 様々な分野・年齢の講師による講演等計画的な人権教育を実施し、豊かな心を育む教育を推進する。また、いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するためにいじめに関する校内組織を中心に組織的に取り組む。
- イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り達成感を覚える取組みをする。
- ウ 集団活動を通して、他者と望ましい人間関係・協働関係を構築できる人間性を育む。

3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成

(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。

- ア 組織的な統一した遅刻指導を行い、遅刻に対する生徒の意識の改善を図る。
- イ 毎日の登下校時及び毎授業時間の開始・終了時の挨拶の励行。
- ウ 「挨拶」「服装」「頭髪」「規律」「自転車のマナー」等に関する生徒の規範意識を高めるため、あらゆる場面において全ての教員が指導する。
※遅刻平均総数を令和5年までには、1500回を目標とする。（H30年度2439回、令和元年度3565回、令和2年度2851回）

(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。

- ア 部活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を継続する。
- イ 文化祭や2月祭で文科系クラブ等の生徒の学習の成果の発表の機会を設ける。
- ウ 部活動を中心とした清掃活動を継続し、校内の特定箇所の集中清掃や校外の地域清掃を行う。
- エ 生徒会活動や学校行事の活性化を継続して行い、生徒が主体的に運営する機会を増やす。
- オ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むため、語学研修や海外の高校との交流（オンラインも含めた）を促進する。
※学校教育自己診断の「学校行事における肯定率」を令和5年度には80%台に乗せる。（H30年度56%、令和元年度65%、令和2年度70%）

4 学校全体の課題を共有して、解決に向けて取り組む

(1) 分掌部会等の開催

- ア 業務の平準化をめざし、分掌内業務の見える化を行う。業務の継承～指導改善へとつながるように、業務マニュアルを含めて総括を行い、次年度への改善点の洗い出しを行う。
- イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。

- (2) 教員の働き方改革への取組みを推進
 ア 毎月の安全衛生委員会で、教員の時間外在校時間を報告し、新たな取組みを検討していく。
- (3) 新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大を防ぐ取組みの推進
 ア マスクの着用や換気の励行等の対策を啓発する。
 イ 新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別が生じないような取組みを推進する。
- (4) オンライン授業に向けての組織の構築と取組みの推進
 ア GIGA スクール構想に向けての校内組織の構築とオンライン授業に対する課題を整理する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年2月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>保護者アンケートの回収率が75.5%で、昨年度より8ポイント程度下がり一昨年度に近い回収率となっている点は少し残念な点である。以下、アンケート中で気になる項目について考察した。</p> <p>【生徒用】 質問項目の「6 クラスは自分にとって落ち着ける場所である」が65.7%で、昨年度と0.1ポイント下がってほぼ横ばい。肯定率が低い、特に1年生(中3～高1の2年間コロナ禍)の転学生徒が多い。また「18 担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」が47.4%で日常的な個別のケアが必要な生徒が多くなっており、相談室の活用だけでなく対策を考えて実行する必要がある。</p> <p>来年度以降、1年生から観点別評価の本格導入が始まることを受け、「7 授業で、自分で考える力が付いた」の他「29 物事に対する理解力が身に付いた」、「30 「発表する力(プレゼンテーション能力)が身に付いた」、「31 相手とコミュニケーションする力が身に付いた」の項目が上がるよう、さらに授業の工夫に取り組まなければならない。</p> <p>「32 本校の先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率がR1:42.4%、R2:44.5%、R3:49.3%と少しずつ上がっているもののその数値は低く、もう一步踏み込んだコミュニケーションが必要とされていることを表しているように思う。</p> <p>【保護者用】 「18 授業以外にも補習や講習などの子に応じた学習指導にも取り組んでいる」の肯定率は13ポイントアップ。進路指導部や学年の取組みが伝わっているものと考えている。</p> <p>しかしながら、「生徒指導方針に共感できる」の肯定率の60.3%に対して、「14 生活指導は、家庭との連携のもとに行われている」45.3%、「15 保護者からの様々な相談に気軽に応じている」46.6%であり、保護者の方とのコミュニケーションについては課題が見られる。</p> <p>また、「16 子供は授業が分かりやすく楽しいと言っている」の肯定率が44.5%で昨年度とほぼ同じ。授業アンケートの評価が学校全体では比較的高い教員が多いので、この点の分析が必要である。</p> <p>【教員】 課題としては「3 様々な教育問題に対して、学校全体で日常的に話し合っている」38.5%で、昨年度比7ポイント減。職員会議の時間を短縮して、ミニ研修や情報交換の時間も必要だが、まずは学年内や分掌内、その後の他との相互連携の両面が必要であると考えている。また、「6 教科指導に関する教職員間の連絡体制や研修体制が充実している」が18ポイント減となっており、観点別評価の研修を含め、課題の洗い出しが必要と痛感している。</p> <p>「5 視聴覚機器・コンピュータの活用を取り入れる工夫をしている」82.7%で、昨年度比19.5ポイント増。生徒の1人1台が実現したこと、情報処理部でミニ研修を開催するなど設置～管理について貢献してくれた。やっと普通教室にもプロジェクトが多く設置されてきたこともあり、教員の使用率がさらに増加していると思われる。</p> <p>「8 補習や講習などの指導体制が充実している」の肯定率は75%で、昨年度比13.6ポイント増で一昨年度並みに。保護者の方の傾向と一致している。特に3年生の保護者の肯定率が高い。</p> <p>また、「14 進路指導は、生徒自らが進路選択できるような、きめ細かな情報提供や指導をしている」の肯定率が76.9%であるのに対して、「15 生徒や保護者等に対して進路を考える上で、個別説明・家庭との連携が充実している」の肯定率は61.5%。進路決定に向け、生徒・保護者へのアドバイスの内容の充実、具体的なアドバイスができるよう進路指導(進学指導)に関する面談スキルが必要であるように思う。</p> <p>「22 生徒会活動が、主体的・民主的に運営されるよう学校全体で支援している」の肯定率は53.8%で、昨年度比13.5ポイント増。更に行事で生徒を育てていけるようコロナ禍の状況でもさらに工夫が必要かもしれない。</p>	<p>第1回(令和3年6月25日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力がどの程度身につけているのか、その変化を数値によって示してほしい。 遅刻の回数を数値目標にあげていますが、学年による遅刻数の差異などが分かる資料を示してほしい シラバスの主語は誰なのでしょう。教員ばかりではなく、生徒を主語にした目標「生徒は〇〇について学ぶ」なども設定してはどうか。同様に、学校としての目標と生徒が学ぶ目標の2つを整理してはどうか。 勉強合宿について。生徒の自己評価も大事だと思う。 今回会議の前に授業見学を実施。授業風景が見られてとても良かったです。生徒の生き生きとした姿が見られた。生徒が主体的に学ぶためにどのような工夫、努力をしているか。また、意欲作りのために、教材をどう工夫しているか 新入生アンケートの結果はどの範囲で共有されているか。 中学校側が考えていた豊島の生徒の進路希望イメージと実際の進路希望とにギャップを感じた。思っていた以上に多くの生徒が4年制大進学を希望している。できるだけ多くの情報発信をお願いしたい。 大学進学がすべてではないと思う。多様な進路希望の生徒がいる中で過ごした方が生徒は成長すると思う。 ICTを使った授業と従来型の授業、豊島流の教え方を模索してほしい。 ICTを使った授業。どの教科は使いやすいのか、どの教科は使いにくいのかデータをとって、共有してはどうか。 プリントに書き込む授業より、ノートを取る授業の方が集中していたように思う。 中学と違って高校では選択の授業が多い。選択の授業は生徒のニーズにあっているなど感じた。魅力がある。 居眠りをしている生徒がいた。何が背景にあるのか?原因を究明しては。 中学ではスマホは保護者が許可した生徒だけ持ち込み。今回スマホを使った授業が新鮮だった。 <p>第2回(令和3年10月15日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務分掌について、分掌を見直すとか、スリム化するなど、具体的なメソッドはあるのか? 部活動の外部講師は活用されていますか。顧問の先生の指導の現状は?土日の付き添いや退庁時間は?個人の偏りは?どのような実態ですか?卒業生の方にボランティアで指導に来てもらうことは可能か?部活の顧問は、教員全員で取り組んでいるか? 基礎学力の定義はどうなっていますか?前回授業を見学しましたが、穴埋めのプリントはいかがなものか。板書を写す形の方が基礎学力の定着に繋がるのではないかと? 小テストをPCで行うなど、PCで教育の業務を軽減に利用しては。 授業アンケートもオンラインではどうか? 基礎学力の定着についての資料がでていますが、定着しているのか分かりにくい。基礎学力の定着の測り方を考えてもらいたい。 居眠りについて。生徒会を通じて改善策を考えてみてはどうか? <p>第3回(令和4年2月17日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻せずに登校したらメリットがあるといいのでは?指導はどのようにされていますか?遅刻の数は他校との様子と比較する必要があるのではないかと。周りが減っているのうちに増えていると本校に問題があるだろう。 ヤングケアラーの状況はどうか? ボランティアへの取組みで清掃だけでなく、校外に出て自分がどう生きていくかという機会を与えてはどうか。何をどう学んでいいかがわからないので、ボランティアを通して気持ちをどう向かわせるかがきっかけになるのではないかと。 わかる授業・先生が話を聞いてくれるなどから、学校そのものに来る意欲が出れば、学校に向くのではないかと。コロナによりやりたいことがやれない学校になっていけばマイナス要因になって影響している可能性がある。 生徒会とPTAが懇談する場を作っている学校もあり、必要に応じて予算を出すこともできる。 生徒に先生役をさせてはどうか、アウトプットができる環境作りが必要なのではないかと、生徒からの発信が常に行えたら生徒の意識が変わっていいのではないかと、受け身を主体的に変える取組みをしてはどうか。 2月祭はどんな取組みですか?保護者向けに2月祭の案内はできていますか?保護者と

のコミュニケーションという点でも発信した方が良いのではないか。

- ・社会参加やボランティア活動が学びの場となり、生徒にとって大きな変化になるのではないか。そういった場を提供するのが必要ではないか。
- ・先生の心のバランスが崩れないか心配。先生が元気なかつたら生徒たちはついていきたくない。先生のケアもしてほしい。
- ・先生が生徒に頼るのはどうですか？生徒は頼りにされると嬉しいと思う。
- ・業務に対して増員ができないのか？現場から現場の状況を発信していかないと上の人にはわからないのではないか？
- ・教育で重要なのは対面で行うことであることがこのコロナ禍を通して分かった。大阪府の政治の動きはわからないが、ICT機械を増やしたからといって先生を減らしても良い訳がない。対面の重要性が再認識されている。現場から絶えず現状を伝えていかないと、回り回ってどうなるかを具体的に伝えていくことが本当に大切だと思う。現場の声が一番大切だ。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 学力の向上(基礎学力の定着、発展的学力の育成) ア 授業規律の徹底、主体的な授業参加の実践。 イ 双方向性に富む授業の実施。一斉講義形式の授業から脱却する。 ウ 学力の定着。宿題・課題。</p> <p>エ 学校外・授業外学習の取組み。</p> <p>オ 授業外校内学習の充実。</p> <p>カ 「朝学」で基礎学力の向上を図る。</p> <p>(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。 ア 「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 イ 計画・実践・評価・改善という一連の活動により授業改善を行う。 ウ ICT機器を効果的に活用し、指導方法の工夫に努める。 (3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力、社会で生き抜く力と自己表現力の育成。</p> <p>ア 教科授業に加えて学年の取組みや行事、コース授業を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。 イ 英語の4技能。 (4) 生徒の進路実現の支援。 ア 外部講師による土曜講習、夏季勉強合宿の実施。 イ 進路希望に合わせた情報提供、進学講習等早い段階での進学意識の醸成。 ウ 模試の計画的・積極的受験。</p>	<p>(1) ア 授業規律の徹底を図り、授業の準備に重点を置き、主体的に授業に参加させる。 イ 双方向性に富む授業(主体的・対話的で深い学び)を行い、生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させる。一斉講義形式の授業から脱却する。 ウ 学力の定着を図るために宿題・課題を適切なタイミングで課し、学習の振り返りおよび反復を行う。また、学力生活実態調査等を活用しながら学力の推移を把握し、基礎学力の定着を図る。 エ 家庭学習の大切さについても粘り強く指導を行い、課題・宿題の一層の取組みを促す。 オ 授業外校内学習の充実を図り、進路自習室、進学特別ルーム(会議室)、アドバンス学習室(視聴覚室)の積極的な活用を行う。 カ 漢字・英単語の学習、社説の読解等、「朝学」に効率的に取組み、基礎学力の向上を図る。</p> <p>(2) ア 双方向性に富む授業(主体的・対話的で深い学び)を行い、生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させる。一斉講義形式の授業から脱却する。 イ 計画・実践・評価・改善という一連の活動を実践し、現状をより良いものにして行く。 ウ 実施できる教科から、ICT機器を利用する授業を増やす。</p> <p>(3) ア 授業に加えて教科、学年、総合的な探究の時間等、学年の取組みや行事、コース授業を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。 イ 授業において「聞く・話す・読む・書く」をバランスよく育成する。</p> <p>(4) 校内における進学講習や補習および土曜講習の拡充、夏季勉強合宿の継続及び one_day 勉強合宿の拡充をめざす。また、英語については学習効果を一層高めるための習熟度別によるクラス編成を実施する。 イ 計画的な進路 LHR 等を活用し、取組みとして、大学出願前に志望校の「過去問」への取組みを進める。また1・2年の希望者の「校内勉強合宿」を継続して実施していく。 ウ 実施時期を考え、年間計画を立て、適切な模試の受験および活用を促す。</p>	<p>(1) ア 授業アンケート結果における「授業に対するあなたの取組」令和3年度 95%を維持する。 生徒向け学校教育自己診断の「授業で『自分で考える力』が身についた」の肯定率 72%[67%] イ 生徒向け学校教育自己診断の「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率 85%[85%]。 ウ 同自己診断の「本校の授業では、宿題や課題が良く出される。」の肯定率 70%[67%]。 エ 同自己診断の家庭学習(1時間以上)の時間を確保している割合 40%[31%]。 オ 4年制大学進学率 60%を目標とする。 カ 生徒向け学校教育自己診断の「本校では、授業以外にも、補習や講習が充実している。」の肯定率令和3年度 65%[60%]。</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断の「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率 85%[85%]に、また「本校の授業では、自分で物事を調べ、発表する機会がある。」の肯定率を 75%[72%]。 イ 授業アンケートの振り返りシートの全員提出を維持する。 ウ 学校教育自己診断の「本校の授業(実習・演習含む)では、コンピュータやプロジェクトを活用している。」の肯定率 80%[78%]。 (3) ア、イ 学校教育自己診断の「発表する力」令和3年度 65%[61%]、「相手とコミュニケーションする力」の肯定率 70%[67%]、「自分で考える力」肯定率 70%[67%]。 (4) ア 進学実績の4年制大学進学率 60%維持。 イ 学校教育自己診断の「本校では進路についての情報をよく知らせてくれる。」の肯定率 75%[69%]。 ウ 教員向け模試の分析会を年間2回[1回]実施し、模試の有効活用を図る。</p>	<p>(1) ア 授業アンケート結果における「授業に対するあなたの取組」第1、2回とも 94%。目標よりも少し低い。さらに生徒の授業への主体的な参加へ向け工夫が必要。(△) 生徒向け学校教育自己診断の「授業で『自分で考える力』が身についた」の肯定率 69%となり微増。更に授業展開の工夫に取り組む必要がある(△) イ 「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率 85%で昨年度と同じ。コロナ禍の中、特にペアワーク、グループワークを意図的に控えている教員がいる(○) ウ 「本校の授業では、宿題や課題が良く出される。」の肯定率 75%ではあるが、観点別評価の導入もあり、来年度以降、評価指標の継続的な見直しが必要になる(◎) エ 家庭学習(1時間以上)の時間を確保している割合 37%。3年生では 51%が1時間以上の家庭学習に取り組んでいる。1、2年生の学習時間を増やす工夫をして3年生の2時間以上の生徒の増加を図りたい。(△) オ 4年制大学進学率 60%は確保できる見込み(○) カ 「本校では、授業以外にも、補習や講習が充実している。」の肯定率 67%。夏季休業中に実施した one_day 勉強合宿への参加生徒が 51名、アンケート結果も参加生徒の満足度が高い(○) (2) ア 生徒向け学校教育自己診断の「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率 85%。また「本校の授業では、自分で物事を調べ、発表する機会がある。」の肯定率 76%。発表については1年生では 90%となっており少しずつ授業形態を変化できつつある。(○) イ 授業アンケートの振り返りシートの全員提出ができた(○) ウ 「本校の授業(実習・演習含む)では、コンピュータやプロジェクトを活用している。」の肯定率 81%。普通教室へのプロジェクト設置があと6台で全学年揃う。設置率の上昇とともに上がっていると考えられる(○) (3) アイ 学校教育自己診断の肯定率「発表する力」67%、「相手とコミュニケーションする力」73%、「自分で考える力」肯定率 69%。発表とコミュニケーションの活動が微増で、コロナの影響もあってあえて控えている。難しい面もあるがもう少し取組みを増やしていきたい(○) (4) ア 進学実績の4年制大学進学率を 60%維持している。(○) イ 学校教育自己診断の「本校では進路についての情報をよく知らせてくれる。」の肯定率 75%。もう少し1、2年生時の指導を強化していきたい。(○) ウ 教員向け模試の分析会を年間2回実施した。(○)</p>

府立豊島高等学校

<p>2 将来の寄つて立つ軸を形成する取組みの推進</p>	<p>(1) キャリアデザインの推進 ア 「キャリアデザイン」を推進する。</p> <p>イ 職業意識の醸成</p> <p>(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成 ア 計画的な人権教育の継続し、豊かな人権意識を養う。</p> <p>イ 学校行事・学年行事で達成感を覚える取組みをする。</p>	<p>(1) キャリアデザイン (以下CDと記載) の推進 ア 自分の人生・生き方・進路について考えさせる「キャリアデザイン」を「ロングホームルーム」や「総合的な探究の時間」(必ず調査・研究・発表のステップを踏む)等を活用して推進する。</p> <p>イ 入学から卒業までの段階を踏んだCDプログラムに基づき、進路先の更に先にある職業意識を育む。</p> <p>(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成 ア 3年間を見通した計画的な人権教育を継続し、様々な分野・年齢の講師から講演を聞き、豊かな人権意識を養う。</p> <p>イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り達成感を覚える取組みをする。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の令和3年度の肯定感80%を維持する。</p> <p>イ 同上</p> <p>(2) ア 3年間の計画的な人権教育計画作成とテーマ別人権総合学習の継続。</p> <p>イ 体育祭、文化祭、及び2回の学校説明会の運営に生徒が主体的に関わる体制を維持する。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率82%。来年度以降もキャリア指導に力を入れていく。(○)</p> <p>(2) ア 継続できている。来年度以降も引き続き力を入れていきたい(○) イ 体育祭、文化祭、及び2回の学校説明会の運営に生徒が主体的に関わる体制が維持できており、とくに協力してくれる部活動参加生徒が多い。生徒の声が聞けたり、姿が見える実施形態は参加した中学生、保護者の反応が良い。(○)</p>
<p>3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の育成、通学マナーの向上とあいさつ運動。 ア 組織的な統一した遅刻指導。 イ 挨拶の励行。</p> <p>ウ 全教員の指導による生徒の規範意識の高揚。</p> <p>(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。 ア 部活動充実 イ 学習成果の発表</p> <p>ウ 部活動を中心とした清掃活動</p> <p>エ 生徒会活動や学校行事の活性化</p> <p>オ 語学研修・海外の高校との交流の促進。</p>	<p>(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。 ア 組織的な統一した遅刻指導を徹底し、「遅刻はしない」という意識の醸成をする。</p> <p>イ 毎日の登下校時及び毎時間の開始・終了時の挨拶の励行。</p> <p>ウ 「挨拶」・「服装」・「頭髪」・「規律」・「自転車のマナー」等に関する生徒の規範意識を高めるため、あらゆる場面において全ての教員が指導する。</p> <p>(2) ア 部活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を継続する。 イ 文化祭や2月祭で文科系クラブ・生徒の学習の成果やの発表の機会を設ける。</p> <p>ウ 部活動を中心とした清掃活動を継続し、校内の特定箇所の集中清掃や校外の地域清掃を行う。</p> <p>エ 生徒会活動や学校行事の活性化を継続して行い、生徒が主体的に運営する機会を増やす。</p> <p>オ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むため、語学研修やオンラインも含む海外の高校との交流を促進する。</p>	<p>(1) ア 遅刻総数前年比減に向け取り組む。指標は前年度比20%減。[2851]</p> <p>ウ 学校教育自己診断の「学校生活について先生の指導には納得できる。」の肯定率60%[54%]。</p> <p>(2) ア、イ 学校教育自己診断の「本校は、体育祭・文化祭などの学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」学校行事における肯定率80%[70%]。</p> <p>ウ 実施回数全クラブで35回[30回]。</p> <p>エ 学校教育自己診断の「本校は、体育祭・文化祭などの学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」学校行事における肯定率75%[70%]。</p> <p>オ 語学研修や海外の高校との交流を継続する。</p>	<p>(1) ア 遅刻総数がのべ4034名(R4.1.31時点)で増加している。コロナ禍の影響はあるが、理由のある遅刻も多く、様々な指導と併せて見直しが迫られている。(△)</p> <p>イ 下足室周辺での指導、授業前の挨拶等しているがまだ、生徒自身からの挨拶がもっとできるところまでの指導が必要。 ウ 学校教育自己診断の「学校生活について先生の指導には納得できる。」の肯定率58%。昨年度より微増ではあるが、まだまだ低い。特に学年や担任からの様々な指導、対応の仕方について寄り添いながら頑張らせる等、指導法について見直しも必要(△)。</p> <p>(2) ア、イ 学校教育自己診断の学校行事における肯定率が79%、微減。今年度はコロナの影響で体育祭と文化祭が9月になったが、文化祭の発表をコロナの影響で中止の判断をしたため減じているのかもしれない。2月祭は感染症対策をしながら実施した。(△) ウ 積極的なクラブは月4回以上のペースで取り組んでくれている。実施回数はのべ数78回。保護者等のアンケートではボランティア等の活動の評価が低い。他の活動を含めて情報発信がさらに必要(○) エ 「本校は、体育祭・文化祭などの学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」学校行事における肯定率79%。特に1年生は91%。全体でもこの肯定率になるようにしていきたい(○) オ 今年度もコロナ禍で交流できなかった(一)来年度以降、オンラインでの実施をできるだけ進めていきたい。</p>

<p>4 学校全体の課題を共有して、解決に向けての組織づくり</p>	<p>(1)「分掌部会」等の開催 ア 業務の平準化分掌内業務の「見える化」を行う。業務マニュアルを含む「総括文書」等を残す。 イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。</p> <p>(2) 働き方改革の推進</p> <p>(3)新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大を防ぐ取組みの推進</p> <p>ア マスクの着用や換気等の感染症対策の徹底 イ 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害を生起させない</p> <p>(4)オンライン授業に向けての組織の構築と取組みの推進 ア 校内組織の構築とオンライン授業に対する課題の整理</p>	<p>(1)「分掌部会」等の開催 ア 業務の平準化をめざし、分掌内業務の「見える化」を行う。業務の継承ができるように、業務マニュアルを含む「総括文書」等を残す。 イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。</p> <p>(2) ア 業務削減に繋がることを実践する。</p> <p>(3) ア マスクの着用や換気の励行等の対策を啓発する。 イ 新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別が生じないような取組みを推進する。</p> <p>(4) ア 委員会組織の構築とオンライン授業に向けた課題の整理を進めていく。</p>	<p>(1) ア 各分掌で1年の締めくくりとして「総括文書」を職員会議で提示し、次年度の業務を引き継ぐ体制を構築する。 イ 学年会議や分掌会議を毎週開催することにより、諸課題を整理し、月2回の運営委員会で解決策を検討する。</p> <p>ア 1か月あたりの平均時間外在校時間を昨年度比5%減少させる[30H]。安全衛生委員会を毎月開催し、職場環境の改善につなげる。</p> <p>ア 「ほけんだより」等の文書を毎月発行し、感染症対策の徹底をはかる。 イ 人権教育推進委員会等を毎週開催し、校内における諸課題を整理するとともに、偏見や差別を生起させないような取組みを実践する。</p> <p>ア 1人1台の端末の導入に向けて、ICTを効果的に活用する研修会等を年に3回実施する[2回]。</p>	<p>ア 現在、各分掌で鋭意作成中(○) イ 担任会は隔週、時間割に組込めなかった分掌の会議も隔週の実施。放課後の指導が多く毎週は行っていない。分掌学年から情報発信をして提案内容や予定の事前周知、検討、確認の流れが不足しているため来年度以降は改善しなければならない。(△) 職員会議資料の事前配付で会議時間の短縮と資料のペーパーレス化をすすめたい ア 安全衛生委員会を毎月開催し、残業時間の確認、職場環境の改善について話し合うことはできたが、クラブ活動ができるようになったこともあるが、月平均で10時間以上増加している月もあり、残業時間は減少できていない。(△)業務を複数で取り組んだり、引継ぎとシステム化が必要と考えている。 ア 今年度も定期的に発行。その都度タイムリーな話題を掲載していった(○) イ 人権に関する授業への取組みが今年度も様々な企画で行うことができている(○) ア 職員会議後の時間に3回実施。学習支援クラウドサービスの活用を今後さらに進めて、資料の配付や研修、会議が行えるようさらに進めていきたい。また、生徒1人1台が9月から使用可能になり、少しずつ活用しているが、全教員への端末等の配付は完了しておらず、その整備が急務(○)</p>
------------------------------------	---	---	--	--